

1 今年度の学校評価（重点目標）

<p>本年度の重点目標</p>	<p>①知識や技術だけでなく生徒の内面的な成長や人間性の育成を重視する教育活動を実践する。                  ②生徒の学習成果を最大化するために教育の質を向上させた授業改善を行う。                  ③未知の課題に試行錯誤しながら対応することが求められる難しい社会をたくましく生きる生徒の育成には、体験的に学ぶ場が必要である。部活動や学校行事、生徒会活動を通して、生徒の人間関係形成能力を育成する。                  ④教員の業務改善を行い、全職員が互いを尊重し、協力し、補い合い同じ目標に向かって日々の教育活動に努める。                  ⑤生徒や保護者、地域のニーズに応え、地域に愛され地域社会に貢献する人材を育成する。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>学校行事 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意義を明確に認識させることにより、それに伴った所作、行動をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の目的、意義を告げ認識させる。身だしなみ指導と所作指導を細やかに行う。</li> <li>・式の前に歌唱指導をおこない、校歌等をしっかり歌えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係分掌と学年と連携をした身だしなみ指導、所作指導をすすめる。個々に場に応じた姿勢・行動が自らとれるようにする。</li> </ul>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の充実</li> <li>・新学習指導要領への対応（観点別学習評価の適用）</li> <li>・校務支援システム（スクールエンジン）の円滑な運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業状況の把握、効果的なICTの利用について情報交換の活性化を図る。</li> <li>・新学習指導要領の理解を一層深め、観点別学習評価を適切に行う。</li> <li>・校務支援システムを幅広く活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、学年との連携を図る。</li> <li>・生徒を多面的に評価できる工夫を重ねる。</li> <li>・情報を積極的に集め、業務の効率化を図る。</li> </ul>
<p>進路指導 (進路指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の進路実現のために学年や教科と連携を図り、最新かつ最適な進路情報の発信に努める。</li> <li>・生徒の自己肯定感を育み、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>・生徒の学力向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な進路委員会等の開催によって、生徒が進路資料室を利用する機会を増加させ、生徒個々の進路実現意識の向上につなげる。</li> <li>・オープンキャンパスを入試システムの多様化に適応する機会の一つとし、入試について多角的に考察する機会を設ける。</li> <li>・授業や補習などで生徒の知的探究心を育み、学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路資料室の環境整備に努める。</li> <li>・進路情報の精選に努め、適切な進路情報を学年に伝える。</li> </ul>
<p>生活指導 (生徒指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が、安心、安全な場所であるためにも学年、分掌間で積極的な情報交換、情報共有を行い、学校全体で指導を行うよう努める。</li> <li>・遅刻、欠席、早退を減らし、基本的な生活習慣の確立に努める。</li> <li>・身だしなみ指導については、学校全体で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から生徒の様子をしっかりと観察し、声かけや保護者との連絡を密にして信頼関係の構築に努める。</li> <li>・安易な・遅刻や欠席をさせないよう指導を徹底する。</li> <li>・身だしなみ指導については再指導を含めしっかりとやり切る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者との信頼関係を構築する。</li> <li>・生徒達が、学校を安心・安全な場所とし、学習や部活動に専念できるようにする。</li> <li>・分掌、学年と連携し、生徒指導にあたる。</li> <li>・地域に支えられて教育活動をおこなっており、地域から信用・信頼される行動をとれるようにする。</li> </ul>
<p>いじめ防止対策の推進 (生徒指導部) (教育相談)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止に関わる取組を充実させる。</li> <li>・いじめの早期発見し、適切に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒を対象にした人権講話を始め機会ある毎に、相手を尊重し、円滑な関係を築き上げることの大切さを伝えていくことでいじめを自発的に防止する態度を育てる。</li> <li>・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践できるようにする。</li> <li>・生徒は、命の大切さ、他人を思いやる気持ちをもてるようにする。</li> </ul>
<p>生徒会活動 (生徒会担当)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自立を目指し、学校行事や生徒会活動を意欲的に実施する。</li> <li>・年間の業務を見直し、時代に合った分掌業務の整理を心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の年間計画を現在の実態にあうよう見直しをする。</li> <li>・生徒会執行部を中心に各種委員会・関連実行委員会の連携を含め、積極的な活動をすすめる。</li> <li>・生徒会室、生徒会倉庫などの整理整頓と物品の管理をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北高生の将来のあるべき姿を思い、生徒自らがすすんで行動し、社会に求められる人材になるよう配慮する。</li> <li>・生徒会業務の振り返りを中心に業務に再配分を意識して活動する。</li> <li>・わずかな実績づくりから各委員会活動をすすめる、実績ある委員会に導く。</li> <li>・活動は、できる限り生徒自ら運営していくようにする。</li> </ul>
<p>P T A 活動 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開をはじめとする学校行事、総会をはじめとする P T A 行事への参加者を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や行事の案内をはじめとする広報活動を積極的に進め、また、P T A 新聞を発行することで、取組への理解と協力を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮北高安心メールとホームページの連携を深め、活動や行事の案内を適宜掲載することでできる限りの周知を行う。</li> </ul>
<p>防災 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に安全を確保し、円滑に応急対策をできるよう防災体制を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災避難訓練と防災学習（シェイクアウト訓練）を実施し、生徒に防災に対する意識を高めさせる。</li> <li>・より具体的な対応を記載した防災体制を作成し、教職員それぞれが周知できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時間帯、気象条件等できるかぎりの諸条件を考慮し作成する。特に、安否確認と保護者への引率手段、生徒の安全確保対策を確立し周知する。</li> </ul>

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
学校保健 （保健部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒及び職員の健康保持増進を図る。</li> <li>学校生活への適応が難しい生徒について関係諸機関と連携する。</li> <li>環境美化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断により病気の早期発見や早期治療を促し、健康の保持増進を図る。</li> <li>毎朝担任による健康観察を実施する。</li> <li>不適応が見られる生徒について、職員間の情報共有を密にするとともに、SCやSSWと連携をして適切な支援の方策を探る。</li> <li>教室環境や身の回りの整備を日頃からよびかけるとともに、環境美化意識を高めるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。</li> <li>受診が必要な生徒には、保護者会等も利用して受診の必要性を訴える。</li> <li>生徒の心身の状態を観察することを怠らず、個々の状況に応じた援助ができるようにする。</li> <li>環境美化意識をもった行動ができるようにする。</li> </ul>
図書 （図書研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館を活用した学習意欲の向上</li> <li>文化的活動拠点の活性化及び図書に親しむ機会の活性化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部及び教科担当者と連携し、図書館オリエンテーション、図書館活用授業、図書委員会活動を活発にし、学習意欲の活性化を図る。</li> <li>アサドクフェスタ等のイベントも充実させ、図書に親しむ機会を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、学年、教務部との連携を図る。</li> <li>生徒の活動・活用状況等を把握し活性化に繋げる。</li> <li>学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。</li> <li>図書委員会を通して、イベント等の周知を工夫する。</li> </ul>
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止 （安全衛生） （保健部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>在校時間の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、教職員のメンタルヘルスの保持に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動指導ガイドラインの順守に努める。</li> <li>1か月間の時間外労働が80時間を超える教員に対して、そのつど面接指導の有無を確認し、教員の健康障害防止に努める。</li> <li>行事の精選を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在校時間の状況記録の結果から前年同月比で時間減少させる。</li> <li>安全衛生委員会のアンケート調査等で、良好な数値または取組の評価を得る。</li> </ul>
ICT活用 （デジタル指導部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話的で深い学びを実践できる授業が行えるように、ICT機器の利活用を促進し、物品管理を適切に行う。</li> <li>生徒用タブレットの管理及び貸与業務を確実にし、利活用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の整備を進め、教員が気軽にICT機器を使える環境を整えるとともに、物品の管理を適切に行う。</li> <li>生徒用タブレットの利用規程等を適宜改め、生徒用タブレットの利活用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務部と連携を図り、ICT機器や生徒用タブレットの適切な管理を行う。</li> <li>生徒用タブレットの利活用に関して、他分掌と連携しながら、規程等を適宜改定する。</li> </ul>
広報 （デジタル指導部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へ学校行事等の情報を発信する。</li> <li>中学生やその保護者に対し情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新を積極的にし、できるだけ早く保護者や中学生に学校の様子を伝える。</li> <li>ニューズレターや学校紹介ビデオ等を通じた広報活動を行い、中学生に本校の情報を伝える。また、魅力発信フェスタ等、直接中学生と接する機会を有効的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページによる情報発信に力を入れ、迅速な更新に努める。</li> <li>見やすさや分かりやすさに焦点を置くことを忘れないようにする。</li> </ul>
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「最高の普通」を学年目標とし、基本的な生活習慣の定着、向上心や思いやりの心を持つことを軸にして、学習指導、生徒指導、進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、身だしなみ、時間の厳守といった規律を守ることを当たり前のように行う。</li> <li>週末課題や授業の予習・復習を基本として、家庭学習は「学年＋1時間」が達成できるようにサポートする。</li> <li>「他人に気を遣いながら行動する」ことでなく、「他人が嬉しいと思うことを行動に移す」ことができるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が生徒とコミュニケーションを密に取りつつ、普段の生活にも目を配りながら、学習・生徒指導を実施する。</li> <li>有事の際には、報連相を徹底し、担任から学年主任、分掌主任、管理職と組織として連携し、担任は保護者とのコミュニケーションを密に取りながら対応したい。</li> <li>進路指導は3年生になった時のことを想定しながら、生徒に指導しつつ、面談週間などの生徒と面談して、進路の話になった時に、生徒が進路についての考えを言えるように、適宜サポートをする。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「規律」をテーマとし、生徒にルールを順守させる。</li> <li>「思いやり」をテーマとし、生徒が相手目線で考えられるようアプローチする。</li> <li>「主体性」をテーマとし、生徒自身が、積極的に様々なことに挑戦できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則を周知徹底する。</li> <li>日頃から生徒の様子を観察し、細かなルール違反も見逃さず指導する。修学旅行を通して、集団としての規範意識を向上させる。</li> <li>トラブルへの対応や日頃の指導でも、「相手目線」を考えられるよう粘り強く声掛けをする。</li> <li>生徒が主体的に挑戦する機会を多く作り、挑戦を応援、サポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年団でも校則の共通理解を持つ。トラブルなどの対応方法についてルールを整備し、一貫性を持つ。</li> <li>教員自身も、「生徒目線」を大切に、指導の効果が表れるように工夫する。</li> <li>部活動への積極的な参加を支援する。</li> <li>生徒会執行部や、行事の実行委員への参加を推奨する。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>『人間力の向上～自分らしい生き方や成功を追求する力を育む』を第1目標とし、生徒の進路実現に向けた指導の充実を図る。</li> <li>挨拶や時間を守るといった規律を遵守する精神と自立心を育む。</li> <li>成人として自覚ある行動が取れるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探求の時間を利用し、自らの進路実現のために必要なことを考えさせる。</li> <li>MSTやASTでの諸連絡の徹底と共に正副担任の講話等によって円滑で発展的な学級経営につなげる。</li> <li>時間の使い方について声掛けをして、学校での学習や家庭学習を習慣化する。また、オープンキャンパスや進路研究から自己の進路実現について考える。そして、常に家庭との連携を図り、進路実現を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年団で共通の理解をもち、連携を取りながら、円滑な生徒指導を行う。</li> <li>他学年や分掌と連携を取り、生徒に伝える情報を精選し、生徒が自発的に行動できるように心掛ける。</li> <li>総合的な探求の時間の充実を図り、生徒が効率よく自己分析できるように促す。</li> <li>成人する学年として自覚させ、責任ある行動ができるように支援する。</li> </ul>

2 令和5年度の学校評価（評価結果と課題）

<p>前年度の重点目標</p>	<p>①自分自身としっかり向き合い、理想や夢の実現を目指し、自ら考え、粘り強く物事に取り組むことができる生徒を育成するよう、個に応じたきめ細かな指導を行う。                  ②部活動やその他の特別活動のみならず、日頃の学校生活の中で、どんな人にも思いやりの心を持ち、より良い関係を作ることを意識させ、他者を尊重することができる豊かな人間性とコミュニケーション力を育成する。                  ③生徒の学力向上のため、日々の学習活動全体を通して、より高みを目指す学習を支援する。                  ④引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策等も含め、生徒の健康管理や安全の確保にも留意する。さらに、学校を安全で安心して学ぶことができる場とするために、交通安全・防犯意識等を高め、危機管理体制の確立に努める。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学校行事 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意義を明確に認識させることにより、それに伴った所作、行動をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の目的、意義を告げ認識させる。身だしなみ指導と校歌歌唱指導、所作指導を細やかに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が5月に第5類に移行したため、6月の全校集会から全校生徒を体育館に集め、式典・集会を実施した。それぞれの行事の中で目的と意義をしっかりと伝えることにより、落ち着いた式典・集会を行うことができた。今後の課題としては、新入生が参加しても、これまでと同様に落ち着いて式典等を行えるように効果的な指導を行うことである。</li> </ul>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の充実</li> <li>新学習指導要領への対応（観点別学習評価の適用）</li> <li>校務支援システム（スクールエンジン）の円滑な運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業状況の把握、情報交換の活性化を図る。</li> <li>新学習指導要領について理解を深め、観点別学習評価について検討する。</li> <li>校務支援システムをできるだけ活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の指導のおかげで概ね落ち着いた授業が実施でき、問題となることは少なかった。</li> <li>あいちラーニングの取組みで授業におけるICTの利活用が進んだ。より効果的な授業での活用法について探っていく。</li> <li>新学習指導要領への対応に努めたが、まだ十分な状況にはなっていない。観点別評価の評価項目の検討をさらに進め、生徒を多面的に評価できるよう工夫を重ねる。</li> <li>校務支援システムの活用により、授業出欠や成績などの集約が容易になり、書類作成の効率化につながった。全職員が利活用できるよう、案内などを工夫していきたい。</li> </ul>
<p>進路指導 (進路指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己理解の深化、視野の広い職業観の形成の支援</li> <li>進路行事の企画・運営、学年・教科との連携</li> <li>適切な進路情報の提供</li> <li>書類の適切な発行及び管理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科主任会や学力向上委員会の有効活用をする。</li> <li>進路資料室の生徒の利用を増加することで、生徒の進路に対する意識を向上する。</li> <li>校務支援システム（スクールエンジン）を利用した調査書発行については、昨年度のマニュアルをさらに詳細なものに仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上委員会では、進路指導部からの提案を出すことができたが、教科主任会をうまく生かすことができなかった。進路と教科がうまく連携できる方法を考えていきたい。</li> <li>進路資料室の整備が遅れてしまったことで、生徒が利用する機会が少なかったが、昨年度末までに大がかりな整備ができたことで、利用機会が増えると考えている。</li> <li>校務支援システムを利用した調査書発行については、3年生の要録を作成してから、調査書を作成するという形をとったことで、作業をより簡素化することができた。</li> </ul>
<p>生活指導 (生徒指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校が、安心、安全な場所であるためにも学年、分掌間で積極的な情報交換、情報共有を行い、学校全体で指導を行うよう努める。</li> <li>遅刻、欠席、早退を減らし、基本的な生活習慣の確立に努める。</li> <li>身だしなみ指導については、学校全体で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から生徒の様子をしっかりと観察し、声かけや保護者との連絡を密にして信頼関係の構築に努める。</li> <li>安易な・遅刻や欠席をさせないよう指導を徹底する。</li> <li>身だしなみ指導については再指導を含めしっかりとやりきる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻の指導を大幅に変更した。また、心に問題等を抱えている生徒に対しても、他の機関とも連携を取りながら対策を進めていく必要がある。基本的な生活習慣を確立し、安易に学校を休まない・遅刻しない意識を育む取り組みをする必要がある。</li> <li>大幅に見直した校則の運用がはじまったが、頭髪の基準が曖昧なため、頭髪指導については学年で温度差が生じている現状がある。学校全体で共通認識を持てるように調整が必要である。また、身だしなみ指導の在り方も検討していく必要がある。</li> </ul>
<p>いじめ防止対策の推進 (生徒指導部) (教育相談)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの未然防止に関わる取組を充実させる。</li> <li>いじめを早期に発見し、適切に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒を対象にした人権講話を始め機会ある毎に、相手を尊重し、円滑な関係を築き上げることの大切さを伝えていくことでいじめを自発的に防止する態度を育てる。</li> <li>「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期に1回「生活状況調査」を実施した。無記名での実施により、いじめの早期発見ができた。該当の生徒と面談し、実態を把握した上で組織的に対応することができた。</li> <li>講話等でもお互いを尊重し合える関係づくりに重点を置き、生徒の意識高揚を図ることができた。今後はさらに生徒の人権感覚を磨くための取組をしていく必要がある。</li> </ul>
<p>生徒会活動 (生徒会部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰属意識を高め、自律した生徒会活動と部活動を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会規則はじめとする諸規定を実態にあうよう見直しをする。</li> <li>各種委員会・関連実行委員会の積極的な活動をすすめる。</li> <li>生徒会室、生徒会倉庫などの整理整頓と物品の管理をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>執行部会、議会、選挙管理委員会の活動に対し、生徒の主体的で積極的な活動が定着してきた。特に北斗祭や球技大会、東日本震災支援事業をはじめとしたボランティア活動は、生徒の活躍が行事の成功に寄与する部分がとても大きかった。今後も生徒がより主体的に活動できるように、諸規定の見直しと各種委員会・関連実行委員会のありかたを検討していきたい。</li> </ul>
<p>P T A 活動 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開をはじめとする学校行事、総会をはじめとするP T A 行事への参加者を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動や行事の案内をはじめとする広報活動を積極的にすすめ、また、P T A 新聞を発行することで、取組への理解と協力を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が5月に第5類に移行したため、全ての行事が保護者の参加・観覧が可能となり、多くの保護者が様々な行事に参加・観覧された。今後は学校安心メールやホームページとも連携を深め、更に充実させていきたい。</li> </ul>
<p>防災 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に安全を確保し、円滑に応急対策をできるよう防災体制を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災避難訓練とシェイクアウト訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高めさせる。</li> <li>より具体的な対応を記載した防災体制を作成し、教職員それぞれが周知できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災避難訓練は予定通り、屋外で実施することができた。その中の講話で、南海トラフ地震についても触れることができたので、とても意義のあるものとなった。防災に対する意識が高まるように、今後も防災に関わる行事を充実させていきたい。</li> </ul>

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学校保健 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒及び職員の健康保持増進</li> <li>・学校生活への適応が難しい生徒について関係諸機関との連携</li> <li>・ごみの持ち帰りの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断により病気の早期発見や早期治療を促し、健康の保持増進を図る。</li> <li>・毎朝担任による健康観察を実施する。</li> <li>・不適応が見られる生徒について、職員間の情報共有を密にするとともに、SCやSSWと連携をして適切な支援の方策を探る。</li> <li>・持ち込んだごみの持ち帰りを呼び掛け、ゴミの削減を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診勧告書を渡した生徒や保健室利用の多い生徒に対し、自らの健康管理に注意を払うよう指導した。</li> <li>・不適応が見られる生徒や家庭に問題を抱えていると考えられる生徒については、SCと連携して生徒の指導にあたる事ができた。SSWについては、今年度は活用にはつながらなかったが、今後適切に連携をはかっていきたい。</li> <li>・ゴミの持ち帰りを全校集会で呼び掛けることはできたが、生徒の行動変容にはつながりきらなかった。</li> </ul>
図書 (図書研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を活用した学習意欲の向上。</li> <li>・文化的活動拠点の活性化及び図書に親しむ機会の活性化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部及び教科担当者と連携し、図書館オリエンテーション、図書館活用授業、図書委員会活動を活発にし、学習意欲の活性化を図る。</li> <li>・アサドク☆フェスタ等のイベントもじゅうじつさせ、図書に親しむ機会を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員を中心にアサドク☆フェスタや七夕短冊祭り等のイベントの広報活動に積極的に関わり、文化的活動拠点の活性化及び図書に親しむ機会の活性化に繋がったことがアンケートから分かった。</li> <li>・図書館報、校誌「たまきはる」のカラーページやクラスのページからの充実、保護者の方への図書貸し出し等、ホームページからのお知らせを更に向上させていきたい。</li> </ul>
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止 (安全衛生) (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校時間の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、教職員のメンタルヘルスの保持に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活動日並びに活動時間の適正な設定と確実な運用を図る。</li> <li>・退校時間の設定、会議の精選、グループウェア導入による業務の適正化、効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活動時間の適正な運用や、退校時間の設定をしたが、在校時間に減少には至らなかった。タイムマネジメントを意識できるように働きかけをしたい。</li> </ul>
ICT活用 (デジタル指導部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるICT機器の利用を促進する。</li> <li>・生徒用タブレットの管理と活用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の整備を進め、教員が気軽にICT機器を使える環境を整える。</li> <li>・生徒用タブレットの利用規定を定め、生徒用タブレットの活用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の配付および卒業生の回収生徒へのタブレット端末の貸与も順調に行う事ができた。とくに卒業生のタブレット回収は担任の先生方のご協力もあり、紛失や回収遅れの問題もなく完了する事ができた。</li> <li>・あいちラーニング推進事業もあり、Microsoft Teamsを授業で利用する教員も増えてきた。より教員間で活用を進めていけると良い。</li> </ul>
広報 (デジタル指導部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者へ学校行事等の情報を発信する。</li> <li>・中学生やその保護者に対し情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルしたホームページの更新を積極的に行い、できるだけ早く保護者や中学生に学校の様子を伝える。</li> <li>・ニューズレターや学校紹介ビデオ等を通じた広報活動を行い、中学生に本校の情報を伝える。また、魅力発信フェスタ等、直接中学生と接する機会を有効的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを年間で130件程度更新する事ができ、できるだけ早く本校の情報を伝える事ができた。</li> <li>・学校案内(パンフレット)を翌年度の早期に配布できるように準備を進める事ができた。</li> <li>・ニューズレターやSNSなど中学生やその保護者が必要としている情報が何か、検討する必要がある。</li> <li>・個人情報管理が適切かどうかの丁寧さと広報の新鮮度とのバランスが難しく感じる。</li> </ul>
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「規律」をテーマとし、生徒にルールを順守させる。</li> <li>・「思いやり」をテーマとし、生徒が相手目線で考えられるようアプローチする。</li> <li>・「主体性」をテーマとし、生徒自身が、積極的に様々なことに挑戦できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の周知徹底をする。</li> <li>・日頃から生徒の様子を観察し、細かなルール違反も見逃さず指導する。</li> <li>・トラブルへの対応や日頃の指導でも、「相手目線」を考えられるよう粘り強く声掛けをする。</li> <li>・生徒が主体的に挑戦する機会を多く作り、挑戦を応援、サポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の周知徹底に尽力する事ができた。</li> <li>・学年団全体で生徒を観察し、積極的に情報共有した。</li> <li>・全体として相手を尊重する雰囲気は作れている。しかし、想像力の欠如を原因とするトラブルがしばしば起きているので、地道な声かけが必要である。</li> <li>・行事面や部活動面で、生徒が主体的に取り組む場面が多く見られた。勉強面でもより多く見られるように今後指導していきたい。</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間力の向上～自他を認め、互いに支え合う心を育む～」を第1目標とし、豊かな人権感覚を育む。</li> <li>・中心学年としての自覚を持ち、学校組織の一員として、目標を共有し、より良い学校生活を送るように努める。</li> <li>・将来を見据え、計画性を持ち、自分の進路について真摯に向き合う。また、自分の行動に責任を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団を中心とした講話によって、お互いを認め合い行動するように促す。また、挨拶や身だしなみなどの基本的な規律を守るように声掛けを絶えず行う。</li> <li>・学校行事に対して積極的に参加するように促す。また、中心学年としての責任を持たせて、自分の行動に対して責任を持つよう意識させる。</li> <li>・進路行事等の活動に積極的に取り組ませ、自分の将来について考える時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の徹底など規律を守るように促す事ができた。</li> <li>・生徒会役員、学校祭実行委員会に積極的に参加する生徒を支援する事ができた。また、学校行事など特別活動に対して積極的に参加するように声掛けをすることで、自らの行動に対し、責任ある行動をとれるようになった。</li> <li>・総合的な探求の時間を利用することで、自らの進路に対し意識させる事ができた。3年生の進路実現に向けて繋げることができた。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『優しく、深く、健康第一ー人間力の育成ー』を第1目標とし、生徒の自己肯定感の醸成を図る。</li> <li>・学校生活における規律を遵守する精神と自立心を育み、社会性のある成人像を構築させる。</li> <li>・様々な事象から問題解決能力を育成し、生徒の進路実現を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前の教室に入る生徒の様子を観察し、MSTやASTでの諸連絡の徹底と共に正副担任の講話等によって円滑で発展的な学級経営につなげる。</li> <li>・授業規律の遵守と進路実現への支援を図る。その過程で、豊かな社会性と成人としての在り方について考えさせる。</li> <li>・家庭学習を習慣化によって学力の向上を図り、オープンキャンパスや進路研究から自己の進路実現について熟慮させる。そして、常に家庭との連携を図り、進路実現を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間継続して、学年の先生方の「日常の声掛け」や「毎日の学習の記録」などの細やかな指導によって、表面化された問題行動はなかった。特に、金品の紛失案件はゼロであり、本校の安心や安全を示している。さらに、生徒の表情の変化を見逃すことなく指導する事ができ、進路実現につながったと考える。しかし、欠席や遅刻、早退の数は昨年度比で増加しており、「基本的生活習慣の確立」についての指導は不完全であった。</li> <li>・進路指導部と学年が常に連携を図ることができ、「進路・学年・家庭」との調和のとれた進路指導の展開となった。生徒は自己の進路実現に向けて真摯に取り組み、合否に関わらず自己実現を果たす事ができた。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌・学年等において、概ね目標を達成する事ができた。</li> <li>・卒業生の進路実績はきめ細やかな指導体制により、個々の進路実現を図ることができた。</li> <li>・今後は、新しい時代に対応した教育の充実を図り、個に応じたきめ細かな指導を継続する。</li> </ul>		